



すてい~る

目次

●特集 平成22年「新年賀詞交換会」

●平成22年「新年賀詞交換会」開催	1
●支部新年賀詞交換会	6
●突然おじゃま 田嶋 重光 (株)鉄鋼社・代表取締役会長	8
●私の愉しみ 平井 良平 (株)平井・代表取締役会長	9
●理事会・委員会報告	10
●事務局だより	10
●編集後記	裏表紙



社団法人全日本特殊鋼流通協会

〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町3丁目2番10号(鉄鋼会館)

TEL.03-3669-2633・2777 FAX.03-3669-0395

ホームページ <http://www.zentokkyo.or.jp>

E-mail zentoku3@ba2.so-net.ne.jp

(社)全日本特殊鋼流通協会 平成22年「新年賀詞交換会」開催



希望を感じさせる音色の協会テーマ曲を披露 長引く不況下での巻き返しと共生を誓う

全特協では1月21日(木)、東京・市ヶ谷の「グランドヒル市ヶ谷・瑠璃の間」において、平成22年の新年賀詞交換会を開催いたしました。

冒頭、竹内誠二会長(竹内ハガネ商行・代表取締役社長)は、「景気回復の足取りは重く、コスト削減の自助努力は今後とも必要だ。協会事業の柱である資格研修制度では、この不況下でも多くの受講者を送り出している」など、景況感や事業報告をふまえながらあいさつしました。

引き続き、ご来賓代表のご祝辞に立たれた小糸正樹・経済産業省製造産業局鉄鋼課長は、国際競争力の元となる技術力強化、海外マーケットと環境技術への対応の重要性を説かれるとともに、行政の今後の方向性や協会との連携など、会員にとってたいへん興味深いスピーチをされました。

また、のこぎり演奏家サキタハヂメ氏の作曲による協会イメージテーマ曲もこの場で披露され、ミュージカルソウ独特の透明感ある音色と大空に舞い上がるような高らかな旋律で、業界の明るい未来を感じさせてくれました。

その後、安川彰吉特殊鋼倶楽部会長(愛知製鋼・代表取締役社長)のご発声で乾杯。例年同様、約500名の出席者でにぎわう会場は、湊義明東京支部長(野村鋼機・代表取締役社長)の中締めまで、情報交換の場として、今年一年の巻き返しと共生を誓う懇談の場として、終始盛況のうちに進行しました。



[写真提供：(株)特殊鋼産業新聞社]



全特協会長 年頭のあいさつ

(社)全日本特殊鋼流通協会 会長 竹内誠二



コスト低減、人材育成と「なせば成る」の精神で立ち向かっていこう

今年のお正月は例年にも増して静かで穏やかな年明けでしたが、穏やかなのは気候だけで、われわれを取り巻く環境は依然として厳しく、この先、予断を許さない状況です。

一昨年、08年9月のリーマン・ショックから100年に1度あるかないかの金融そして経済の危機で、昨年の上期の経済活動は在庫調整もあり、大幅に落ち込みました。下期に入り、大手企業と中小企業、業種間、地域間などで温度差はありますが、少しずつですが回復の兆しがほのかに見え始めてきたように思います。本年は、昨年末からの円高傾向やデフレスパイラルでの二番底の心配もありましたが、平成22年度の92兆円の大型国家予算、そして補正予算や各種の経済対策などで可能性は低いと思います。しかし、景気回復の足取りは重く、各社ともコスト低減の自助努力は必要と思います。高コストといえば、かつて『沈まぬ太陽』ともてはやされ、日本を代表する日本航空が、この高コスト体質から脱皮できず落日の夕日の中で輝きを失い、ついに破綻しました。経済戦争は、非情で厳しいものがあります。

さて、09年の特殊鋼の生産量は1300万トンを超えるか微妙な状況とかがっておりますが、08年の生産実績2178万トンと比較しますと40%近い落ち込みになりそうです。流通に携わる同業他社の皆さんも多少の濃淡はあります

が、40～50%近い売り上げ減で、いまだかつて経験したことのない危機的状況になっております。

そのような厳しい企業経営を強いられる中で、全特協の事業の大きな柱の一つであります特殊鋼販売技士と特殊鋼加工技士の受講生の数は増加傾向にあります。急激な景気の冷え込みに見舞われた現状から、受講生が大幅な減員になるのではないかと心配しましたが、全くの取り越し苦労に終わりました。この業界はなかなか捨てたものではないな、と改めて意を強くしました。俗に『花を咲かすのは枝、その枝を支えるのは幹、その幹を支えるのは大地に張った根』と言われていました。将来に咲かす花の力強い根っこになってくれる人材を育てるために、この不況下でも研修のために積極的に送り出してくれる幹部の皆さんがおられる限り、特殊鋼業界は不滅です。

ちなみに、両販売技士の有資格者は1万6856名になり、数多くの有為な人材を輩出いたしております。しかしながら本年は、長引く景気の低迷で少なからず減員になるのではないかと推測をしておりますが、打たれ強くたくましい業界ですから、それほどの落ち込みにならぬよう念じております。

一方の柱の海外研修ですが、昨年は景気低迷と新型インフルエンザの足かせもあって、やむを得ず中断しましたが、景気動向の推移を見ながら柔軟性をもって判断してまいりたいと考えております。

また、広報委員会では全特協をイメ

ージしたテーマ曲を、われわれの取扱製品である特殊鋼を素材にしたのこぎりで演奏する第一人者・サキタハチメ氏に作曲していただきました。呱呱(ここ)の声を上げたばかりで名前もまだ決まっていません。産声は大阪支部の交流会の席上でご披露があったようですが、本日のおめでたい席で、あらためてご披露させていただきます。当協会のホームページを開いていただきますとこの曲が流れますので既にお聞き及びの方もおられるかと思いますが、曲調は爽快感あふれ、心洗われるようなメロディーで、全特協の前途洋々たる将来を予感させてくれる素晴らしい曲です。

私は、信州の諏訪で開催しました昨年の総会の席で、過去の歴史的な検証から御祭祭の年は、景気は低迷するものの景気浮揚のきっかけになり、翌年から良くなると申し上げましたが、本年の秋口くらいからその兆候が見えてくるのではないかと、ひそかに願望も含めて期待をしております。

米沢藩主で名君といわれた上杉鷹山の残した言葉に、『なせば成る、為さねばならぬ何事も、成らぬは人の為さぬなりけり』という名言があります。やろうと思えば何でもできます。できないのはやろうと思わないからです。やれば人のためでなく自分のためになるのだから、という意味と解釈しておりますが、今年、この『なせば成る』の精神で長引く不況の波に立ち向かっていきましょう。必ず、なせば成ります。



(社)全日本特殊鋼流通協会 新年賀詞交換会

平成22年1月21日(木) グランドヒル市ヶ谷

ご来賓祝辞

経済産業省製造産業局 鉄鋼課長 小糸正樹 様



技術力、人材力を高め、 海外需要と環境技術に 対応してほしい

昨日、鉄鋼連盟より発表された昨年の粗鋼生産量は、40年ぶりの低水準となる8753万4000トンでした。昨年は、特殊鋼業界にとっても鉄鋼業界全体にとっても、本当に厳しい1年でした。特に、前半は自動車業界をはじめとした生産調整が厳しく、特殊鋼の皆さま

は特に苦しまれたとうかがっています。幸い、年の後半には経済対策の効果も出てきて順調に回復をしているところですが、最近ではデフレや円高傾向の懸念もあり、引き続き予断を許さない環境です。

昨年12月には政府で、7.2兆円規模の緊急経済対策を取りまとめました。エコカー補助金や家電エコポイントの延長に、住宅版エコポイントの新設、中小企業対策としては雇用調整助成金の要件緩和のほか信用保証制度の拡充などの対策を盛り込みました。本日から始まった予算委員会では補正予算の審議がされ、経済産業省としてはこれを早く成立させ、しっかりと対策をとらせていただくのが、今年最初の課題です。

現在、特殊鋼をめぐる環境は非常に厳しいものですが、日本の特殊鋼は製品力、技術力とも世界最高水準にあります。今やるべきことは、足元の競争力強化であり、技術で遅れを取らないようにすることが肝要です。先ほど竹

内会長からお話しのあった、人材育成も非常に大事なファクターです。こうした足元の競争力強化のための取り組みを、厳しい今だからこそ重点的に行うことが大事です。

二つ目は、海外マーケットにどう目を向けていくかということです。国内の市場が短期で飛躍的に伸びていくのが難しいとすると、それが望めるのはやはり海外でしょう。また、国内でエコカーが普及すると特殊鋼の原単位が減るのではないかという懸念があります。ただ、これも世界全体でみれば、まだまだエコカー以外の車が新興国で伸びるというマクロ感があります。こうした海外の需要をどう取り込んでいくかが、大きな課題です。

三つ目は環境問題への対応です。昨年はCOP(コップ)15、コペンハーゲン合意がありました。内容的には先送りとペンディングも多いのですが、長いトレンドでみると環境問題への対応は回避せず。エコカーの原単位にどう取り組むかはもちろん、車に限らず

いろいろな新規分野で軽量で高機能な日本の特殊鋼のニーズは、まだまだ開拓の余地がたくさんあるのではないかと考えます。

こうした課題にひとつずつ取り組んでいけば、特殊鋼の将来はメーカーにも流通にも明るさがあるのではないかと考えます。ただ、その対応には非常に難しい挑戦や改革が必要とされるでしょう。私どもも、政策のツールが今のままでいいのか、と不断に見直しながら、今年も業界の皆さまと緊密な連携を取らせていただきたいと考えております。



乾杯ご発声

(社)特殊鋼倶楽部 会長 安川彰吉 様



一昨年秋のリーマン・ショック、私はこの大ショックを世紀のターニングポイントではないかと考えています。

2つの原点回帰を胸に、新しい時代へと踏みだそう

場合によっては産業革命以降200年、20世紀の終わりには共産主義の崩壊などいろいろありましたが、このショックがそのトドメだろうと考えています。西暦2000年をはさんだ10年間にマラソンでいう折り返し地点があり、昨年はそこを回り、今年は復路に向かって走り出す年だと感じています。そんなときに必要なのは原点回帰で、それには二つのことがあります。

いわゆる当り前のこと、黙々と愚直にキチンとやるというベーシック。『Back to the basicall』です。もうひと

つは、創業の時代を思い出し、志高く、リスクを恐れずにチャレンジし、飛躍するということ。足元をしっかりと見つめる地道さとともに、舞い上がることを忘れずにブレイクスルー。これも、また原点です。

昨年は、大変な思いをしながらターニングポイントを回り、これから100年、200年先へ向けた道を踏み出したわけです。二つの異なる原点に立ち、流通、メーカーが一体となり、その初年度にふさわしい乾杯をしようではありませんか！



中締めあいさつ

(社)全日本特殊鋼流通協会 東京支部長 湊義明



『寅千里を走る』という今年を発展の年に

本日は約500名という多くの方々にご参加いただき、誠にありがとうございました。

昨年この席で私は「遠い雲の彼方に明るい陽射しが見えるのではないかと」申し上げましたが、残念ながら昨年はそのようにはなりません。しかし、昨年前半に比べれば、今は少しはよくなった感があるのは確

かです。証券業界では「丑(うし)つまずき、寅(とら)千里を走り、卯(うさぎ)跳ねる」という格言があります。丑年で伸び悩んだ株価が翌年の寅年には上昇に転じ、卯年に一気に伸びるという意味です。

今年一年の発展と皆さまのご健勝を祈念して、元気よく三本締めとまいります！



各支部でも新年賀詞交換会

東京支部

開催日時：平成22年1月21日(木)17:30～
開催場所：グランドヒル市ヶ谷 瑠璃の間
出席者：約500名
内容：(社)全日本特殊鋼流通協会との合同開催

大阪支部

開催日時：平成22年1月5日(火)11:00～
開催場所：リーガロイヤルホテル
出席者：約750名

内容：大阪ステンレス流通協会、特殊鋼倶楽部大阪支部との3団体共催

冒頭、福岡実晴支部長(南海鋼材・代表取締役社長)は「2009年はずかしくて、需要の落ち込みから特殊鋼業界にとって多くの財産を失った。特殊鋼需要は自動車産業にかかっているが、日本では減税対象のエコカーが販売台数を伸ばし、中国では1300万台とめざましい販売台数を記録している。また、国際的なCO₂削減意識の高まりはエコに秀でた日本車にとって追い風で、今後数年、途上国での需要を軸に自動車づくりが発展していくのではないかと。自動車産業の発展と中国の活発な公共投資をみれば、産機・建機とも一変し、鋼の塊が動き出すのもそう遠くないはずだ。今年の十干十二支は『庚(かのえ)の寅(とら)』。庚は斧や刀など大きく硬い金属を象徴し、寅は動くという意味で春に草木が発生する状況を表わす。双方合わせて春に金属が動き出す。そんな希望と期待をもって安定的な成長の年にしたい」とあいさつしました。

来賓を代表された近畿経済産業局産業部長の波留静哉様は、「緊急経済対策や中長期成長戦略に加え、近畿経済産業局の46のプログラムからなる活性化構想で特殊鋼業界の後押しをしたい」とあいさつ。大阪府商工労働部商工振興室商業支援課長の樋口順康様は、「アジア諸都市と競合しながら人・金・モノが一大交流拠点として発展する大阪、関西の将来像を描き、そのための政策課題に挑戦する」との、橋下徹府知事からのメッセージを代読されました。続いて、森清市大阪ステンレス流通協会理事長(豫州短板産業・代表取締役会長)の「1日も早く景気回復になりますよう祈念して」とのご発声で乾杯。『ハガネが動き出す春』を熱望しながら、盛況のうちに懇親会がとり行われました。



▲福岡支部長あいさつ



▲波留様あいさつ



▲森氏による乾杯



▲君が代斉唱

名古屋支部

開催日時：平成22年1月7日(木)18:00～
開催場所：名古屋観光ホテル
出席者：約410名

内容：名古屋ステンレス流通協会、特殊鋼倶楽部名古屋支部との3団体共催

冒頭、特殊鋼倶楽部名古屋支部長の山田克彦氏(大同特殊鋼・名古屋自動車営業部長)があいさつ。今年の抱負として、『商売の原点に立ち戻る』『環境に対する取り組み』『人材育成』の3つをあげ、『3団体はこの諸課題に共に取り組む』と述べられました。乾杯のご発声は名古屋ステンレス流通協会理事長の北野庸夫氏(中部ステンレス・代表取締役社長)。「京都・清水寺で発表される『その年の漢字』は、去年は新型インフルエンザ、新政権ということで『新』という字が選ばれました。今年の暮れは明るい希望に満ちた文字が選ばれるよう、皆さんのご健勝とご多幸を祈念します」とあいさつされました。

懇親会は和やかな雰囲気の中に進み、中締めは熊谷多津旺支部長(クマガイ特殊鋼・代表取締役社長)が登壇。『「虎の子」という言葉は、自分の子を大切に守って育てる母虎の性質と共に『虎の子渡し』という中国の故事に由来するといわれます。これは、虎が3匹の子を生むと、1匹が彪(ひょう)で他の子を食い殺す。そこで、川を渡るときに親はまず彪を渡し、次いで他の1匹を渡してから彪を連れ帰り、次に残る一匹を渡して最後に彪を渡すといひます。この話で感ずるところは、持っているものは粗末なものばかり。虎であれば自分の口と足だけです。この、何も無いところにかに自分の家族や会社を守るかということです。虎の子は、会社の現金はもちろんお客さま、メーカーさんすべてです。この虎の子を大切に、来るべき素晴らしい年に向けていつでも飛び出せるよう準備しておかなければいけません』とあいさつの上、中部地区の特殊鋼業界の発展を誓いながら感懐のよい一本締めで盛会のうちに終了しました。



▲北野氏による乾杯



▲熊谷支部長による中締め



▲山田氏あいさつ

東北支部

開催日時：平成22年1月15日(金)16:00～

開催場所：仙台国際ホテル

出席者：74名

内容：東北5県からなる会員構成の東北支部は遠路かつ冬季の足場の悪さにもかかわらず、正会員、賛助会員各社とも精力的に出席。チームワークのよさをアピールする賀詞交換会となりました。

冒頭、小林晴信支部長(テー・ビー・ケー 代表取締役会長)は「100年に1度の大不況が続く中、東北支部では協会の目玉事業である『特殊鋼販売技士1級研修講座』を実施。みごと全員合格という快挙に支部長として喜びを感じています。東北地区では2010年末ごろよりセントラル自動車組み立てを開始し、関東自動車と合わせて年間50万台以上の自動車を製造します。これにより、1次～3次下請けまでもの需要が期待できます。今年は、商いの原点回帰に徹し、混乱した状況に筋道をとおり規律を正すという前年の取り組みを継続しながら、さまざまな停滞を一掃するために一致団結して取り組むことが肝要です」とあいさつ。来賓として、岡部秀司氏(日立金属・工具鋼統括部長)、越川典弘氏(大同特殊鋼・工具鋼営業部室長)のあいさつ後、芳賀勝弘氏(アマダマシンツール・東日本地区本部長)の乾杯のご発声で新年の門出を祝った。



▲小林支部長あいさつ



▲岡部様あいさつ



▲越川様あいさつ



▲芳賀様による乾杯

北関東支部

開催日時：平成22年2月14日(日)15:30～

開催場所：伊香保温泉 ホテル木暮

出席者：19名

内容：主催者を代表して宮内保支部長(小山鋼材・代表取締役)は、本部の賀詞交換会での竹内会長の談話を紹介し、「『なせば成る』の強い気持ちで乗りきりましょう」とあいさつ。ご来賓の加藤健二氏(愛知製鋼・東京支店第二営業室)と小金澤秀男氏(日本高周波鋼業・北関東営業所長)よりごあいさつをいただいた後は、和やかなうちに懇談が行われ、長谷川弘和副支部長(長谷川ハガネ店・代表取締役社長)の中締めで終了しました。



▲宮内支部長あいさつ



▲加藤様あいさつ



▲会場の様子

[写真提供：(株)特殊鋼産業新聞社]

静岡支部

開催日時：平成22年1月26日(火)18:15～

開催場所：静岡グランドホテル中嶋屋

出席者：24名

内容：しずぎんホールユーフォニアで高橋進氏(日本総研・副理事長)の「2010年内外経済の展望」(主催：静岡銀行)を聴講した後、新年賀詞交換会を開催。

冒頭、原博康支部長(東泉鋼機・代表取締役)は「昨年度の静岡支部の特殊鋼販売技士研修は3級が24名で全員合格、2級も16名と84%の高合格率と大変よい成績だった。来年度の研修は3級から始まり1級へと続くが、皆さまへのアンケートを元に賛成が多ければ実施したい」などとあいさつ。続いて、ご来賓の大畑公男氏(大同特殊鋼・工具鋼営業部名古屋営業室長)が「08年秋以降、急激にダウンした需要は今年の4月以降、秋口にかけて変化してくるとみている。強気の営業に徹したい」と、妹尾信夫氏(日立金属・中部東海支店営業副部長)は「昨年の最悪期は脱したようだが金型の環境は厳しい。高精度金型の中国からの逆輸入もありえ、こわい。エンドユーザーと共に真剣に考える時期である」とあいさつ。竹内誠二会長(竹内ハガネ商行・代表取締役社長)の発声で乾杯の後、和やかな雰囲気の中に懇談が行われ、山浦康雄運営委員(サンコー・代表取締役)の中締めで散会となりました。



▲原支部長あいさつ



▲大畑様あいさつ



▲妹尾様あいさつ



竹内会長による乾杯▶



[写真提供：(株)特殊鋼産業新聞社]

九州支部

開催日時：平成22年1月6日(水)17:30～

開催場所：ANAクラウンプラザホテル福岡

出席者：202名

内容：九州ステンレス流通協会との共催

岡田成生支部長(ケイエススチール・代表取締役)の「会員各社のご協力のもと共存共栄でこの難局を乗り越えよう。人材育成制度の充実を今後も進めていきます」とのあいさつ後、斎田芳久氏(愛知製鋼・大阪支店長)のご発声で乾杯。懇親会では福引きもあり、盛会の内に終了しました。



▲岡田支部長あいさつ



▲会場風景

突然おじゃま



(株)鐵鋼社 代表取締役会長／田嶋重光

大同特殊鋼の高級プラスチック金型材とSC鋼(平鋼)、新日鐵のタテ鋸切断のS55C-N材を主力に扱う鐵鋼社は、来年で法人化60周年を迎える。昨年1月に次男・直氏に第4代の社長業をゆずり、会長に就任された田嶋重光氏が鐵鋼社に入社したのは、昭和35(1960)年のこと。「資本金30万円、社員は10名ほどで約30坪の自社倉庫はクレーンもない、それは小さな会社でした」と当時を振り返る。経理マンとして会社の近代化を推し進めてきた思い出を語っていただいた。

創立から60年、 創業者の遺徳をしのぶとともに想うこと

■厳しいながらも情熱的な創業社長の 下、薫陶を受ける

田嶋氏が入社した当時の鐵鋼社は、創業者の会田東志氏の下、まだ住み込みで働く社員もあり、家族同様に食卓を囲んで暮らす、そんな時代だった。

「この会田というのが立派な人で、われわれ若い社員には礼儀作法など非常に厳しい人でした。子供がいなかったせいもあってか、わたしたちをわが子のように大切にしてくれました」

例えば、年暮れには当時貴重品だった新巻鮭を社員全員に持たせてくれた。

「第1次オイルショックの時は品薄になった生活必需品を、会田が奔走して買い集め社員に与えてくれました」

今でも印象に残っているのが、ある女性社員の実家が台風の土砂崩れで被害にあった時。会田氏は、夜間にもかかわらず千葉県香取市小見川まで車を走らせ見舞いに駆けつけたという。

当時、田嶋氏が銀行で会田氏のことを「おやじ」と呼んでいると、支店長から「息子さんですか?」とたずねられたという。

「いいえ、うちの社員はみな、おやじと呼んでいます、と答えました。怖いおやじでしたが、威徳とともに親しみも感じさせる経営者だったんです」

■経理マンとして財務的基盤を築き会社 を近代化する

そんなカリスマ社長・会田氏の下でも、若き日の田嶋氏には懸念があった。

「個人商店そのまま、組織もなければ蓄えもない。社長の一声で働く会社だったんです」

埼玉県熊谷市の農家の次男として生まれた田嶋氏は、高校卒業後は印刷会社に勤めながら経理学校に通った。鐵鋼社への転職のきっかけは、後に2代目社長となる深澤吉男専務(当時)と田嶋氏の叔父が埼玉県蕨市の同郷人だったのが縁。入社後は経理スタッフとして働いていた田嶋氏だが、若い社員らと「これではいけない。会社の基礎をしっかりと作らねば」と語らった。

そこで経営理念を作り、就業規則を定めた。また、内部保留を重要と考えて毎年の決算ごと増資を繰り返し、資本の蓄積を図った。

「ついには、社員に会社の株を持たせてくれとも申し出ました。最初は、『あいつらは何を考えているんだ』と言っていた会田ですが、これを実現してくれました」

経理・財務の立場から、現在の鐵鋼社の体制整備と業容拡大を図ったのが田嶋氏なのであった。

■本音で接することで、仕事を愛し、長く働いてもらえる会社を

もともと、鐵鋼社の主力であるブラ型材へかじを切ったのは会田氏の先見によるものだと田嶋氏は言う。

「昭和30年代後半に家電の普及を予測してのことで

す。精密プラスチック金型用鋼としてロングランとなっているNAK55も、会田が大同さんに働きかけて商品化されたものです」

会田氏はミニシャフト用の丸棒として先行開発されていたNAK52に目をつけ、「これでプラ型用の平鋼を作ってくれ」と大同特殊鋼に乗り込んで交渉を繰り返したのだという。

「当時、技術部の渡邊敏幸さん(後に常務)も後に、『会田さんとの出会いがなければNAKが日の目を見ることはなかった』と言われたほどです」

鐵鋼社が開発に携わったNAK55は、40年を超える歴史的なヒット商品になっていることはご存じのとおりだ。

「社風は創業者精神を受け継ぎ、いまでもアットホームな雰囲気だと思います。私も社員には本音を語り、会社を好きになってもらえるよう努めています」

“おやじ”が手くばった新巻鮭は、現在の鐵鋼社でも年中行事として受け継がれているという。



長年、ボーイスカウトの指導者として活動する仲間たちと新潟県十日町市松之山のブナ林を散策のひとつコマ(08年4月20日)

私の愉しみ

(株)平井 代表取締役会長／平井良平



真の趣味は、苦しみも生ずるが、 愉しみも大きい

■日本の伝統芸に没頭した日々

「愉しみは苦しみにも通じたり…」

平井会長は開口一番、自身の経験から趣味についての想いをこう語る。どのような“道”でも突き詰めていけば、“楽”だけでなく艱難辛苦がつきまとう、ということだ。

中高生のある時期、平井会長が約10年没頭したのは詩吟だった。

「自分で節をつけて吟じていました。声は悪い方ではなかったから、いい気分になっていたこともあったんです」

そんな詩吟の道でも、ひと皮むこうと思えば苦行ともいふべき修練が伴う。

寒稽古では「潮風と波の音で満ちた犬吠埼に立ち、のどから血が出るまで声を張り上げる。自分流の『潮だし』と呼ぶ、この修行を5・6回やると、ひとつ上の味のある声ができるようになるんです」

なんとも壮絶な逸話ではないか。

さらに、この業界に入ってから平井会長が取り組んだのが伝統的な音曲だった。当時は、お座敷の文化を心得ておくのも企業人たる者の心得のひとつだった時代。懇意にされていた齋藤裕元新日鉄社長や小川董元大同特殊鋼副社長、得意先のホンダの本田宗一郎社長や藤沢副社長(いずれも故人)など、いずれも芸達者で知られた面々だった。

「みなさん、長唄・小唄・常磐津などを得意とされていましたから、じゃあ、わたしは庶民の好む新内節をやってみようか、となりました」

ついで師匠は富士松綱太夫という人物、喜鶴派の家元で、かつて吉原の幫間だったというから、江戸文化の最後の風韻に触れたことになる。ここで、平井会長は昭和36年から新内節を学び、5年後の昭和41年7月には富士松丈綱太夫という芸名の名取にまでなったが、伝統芸につきものの苦労も味わった。

「名取になると、発表会など一門の寄り合いには、3度に1度は顔を出さなくてはいけない。仕事との折り合いをつけるのが大変でしたね…」

■国風盆栽展の常連入選者として

そんな平井会長が、昭和27年ごろから本格的に始められた趣味が盆栽である。「これこそ、喜びも苦しみも一鉢に詰まったものです。そして、忍耐という気の長さとともに、ある瞬間では決断力も要求されます」

現在、平井会長が所有する盆栽は大小合わせて約百鉢。名木と称される鉢も多数あり、上野の東京都美術館で開催される「国風盆栽展」(年1回)に、今年で45年間連続入選・出品を続けている。盆栽展の最高峰といわれるこの「国風盆栽展」は、全国から約二百数十鉢が入選・出品される。

実は、この道の名木と呼ばれるものの中には、専門の業者に育成・管理を委託して、出品者は名木のオーナーでしかない傾向が強い。しかし平井会長の盆栽は、すべてが自分で剪刀を入れ、水をやり、粗木から仕上げ、20年30年丹精を込めたものばかりなのである。

第50回の国風盆栽展(昭和51年)に出品された『ウメドキ』(裏表紙左)は、樹齢90～100年、鉢上げしてからでも60～70年を経た盆栽である。

数人の所有者を経て平井会長のもとにきた当初は、枝ぶりも弱々しく衰え、枯死寸前の状態だったが、10数年、平井会長の育成で下枝の張りも充実し、たわわについた赤い実が白い幹肌に映え、調和のとれた樹姿を見せるまでの名木になった。

第77回の国風盆栽展(平成15年)入選作の『野梅』(裏表紙中)の由来は感動的

ですらある。これは、奥秩父の溪谷で幹が朽ちてうろ(空洞)になっていた原木を拾い上げ、20年間培養したものである。樹齢は約150年、今では立川の国営昭和記念公園の盆栽園に寄贈され、展示されている五十鉢の一鉢となっている。

「幹の肌や枝順、根の張り具合のほか葉性など、木の素質を見抜く目が必要です。この野梅もそのままでは枯れる運命だったが、ただならぬ素質と旺盛な生命力を感じた。10年20年かければ名木になるかも、ということに賭けたんです」

今年の第84回国風盆栽展には樹齢約500～600年の明治時代山採りした新潟県糸魚川産の『真柏』(裏表紙右)を出品した。

■忍耐と見極めは仕事にも通ず

盆栽における、こうした見極めと根気強い取り組みは『人』にも『商売』にも通じる、と平井会長はいう。

「10年ひと区切りと考えて辛抱するのは会社の経営でも同じです。しかし、若木の素質を見るときは一瞬の判断で決めることが多い。長年の勤が目肥えさせ、20年30年先の姿の裏も表も見られるようになる。日々の剪定もそう。百鉢におよぶ盆栽は、毎朝30分で水やり・剪定とほとんど同時に作業を行います」

忍耐とともにスピードも要求される。ということだ。

「子供のころから土とか自然に愛着があり親しんできた盆栽ですが、樹齢何百年の木が、小さな鉢の中で、苦しみながら育って、気品ある名木になります。そうした、“苦”があるからこそ愛情とともに愉しみを覚える。苦楽相通ず、ということでは盆栽が最たるものかも知れないですね。

私の中では、人も盆栽も何か通ずるものがあるのではないのでしょうか」

理事会・委員会報告

第54回運営委員会

日時：平成22年1月21日 15：00～16：45 於：グランドヒル市ヶ谷
内容：1. 審議事項：①平成22年度事業計画と予算についての概要
②役員選考委員会規程の変更(案)について
2. 報告事項：支部報告、委員会報告、事務局報告

第31回内外交流委員会

日時：平成22年2月22日 12：00～14：00 於：大阪・鉄鋼会館
内容：1. 平成21年度収支実績見込及び平成22年度予算案について
2. 平成22年度事業計画について(海外研修訪問先の選定)

第33回人材育成委員会

日時：平成21年12月3日 16：00～17：30 於：名古屋・安保ホール
内容：1. 第53回運営委員会の報告
2. 平成21年度上期事業実績と予算執行状況について
3. 研修制度の内容を検討するWG報告(第14回、第15回議事録)
4. 平成21年度特殊鋼販売加工技士2級の検定試験結果について

人材育成委員会

第16回研修制度の内容を検討するワーキンググループ会議

日時：平成22年1月26日 12：00～15：00 於：名古屋・安保ホール
内容：1. 検定試験委員会(講師代表者)との意見交換会内容について
2. 特殊鋼販売技士「指導要領書」について
3. 特殊鋼販売加工技士「実務編集要項」の改訂について

人材育成委員会

特殊鋼販売技士検定試験委員会

日時：平成21年12月24日 12：00～15：00 於：名古屋・安保ホール
内容：研修制度の内容を検討するWGとの意見交換会
1. 各級ごとの研修講義の内容(範囲、レベルなど)と現状の問題点
2. 研修テキスト、プレゼン資料に関する考え方

人材育成委員会

特殊鋼販売加工技士検定試験委員会

日時：平成22年2月17日 15：00～17：00 於：鉄鋼会館
内容：1. 特殊鋼販売加工技士「実務編」検定試験の問題選定
2. その他

第37回調査研究委員会

日時：平成21年11月27日 15：30～17：00 於：神戸・三宮研修センター
内容：1. 第51回景況アンケート(7～9月)の結果報告
2. 第52回景況アンケート(10～12月)の設問について
3. 第8回経営環境等に関するアンケートの設問について

第15回経営効率化委員会

日時：平成21年11月25日 15：00～17：00 於：鉄鋼会館
内容：1. 平成21年度事業の実施状況について
(1)「玉掛け技能講習会(含むクレーン特別教育)」実施報告
(2)金融関係勉強会「中小企業のための資金調達術」開催報告
(3)継続事業(共通通い箱、無料法律相談窓口)の実績について
2. 平成21年度4月～11月収支見込

第16回経営効率化委員会

日時：平成22年2月26日 12：00～14：00 於：大阪・鉄鋼会館
内容：1. 平成21年度事業実績見込及び収支実績見込について
2. 平成22年度事業計画及び予算案について
3. 共通通い箱「おかよちゃん」在庫報告
4. 「玉掛け技能講習会」次年度開催希望のアンケート結果報告

第22回広報委員会

日時：平成22年2月24日 14：00～17：00 於：名古屋・安保ホール
内容：1. 「はがねの日」記念切手寄付金の寄付先について
2. 平成21年度事業実績見込及び収支実績見込について
3. 平成22年度事業計画及び予算案について
4. 広報誌「すてぃーる40号」の校正・確認

第27回青年部会正副部会長会議

日時：平成22年2月4日 15：00～17：00 於：鉄鋼会館
内容：1. 第15回運営委員会の開催と内容について
2. 「はがねの日」クリアファイルの配付について
3. 平成21年度事業実績見込及び収支実績見込について
4. 平成22年度事業計画及び予算案について

事務局だより

1 JISハンドブック及び定期刊行物購入斡旋のお知らせ

日本規格協会発行の「JISハンドブック」及び定期刊行物の購入斡旋を継続しております。是非ご利用下さい。お問い合わせは、事務局までお電話下さい。(Tel 03-3669-5803)

2 共通通い箱・鉄網製「おかよちゃん」について。(経営効率化委員会)

搬送・保管効率が良好、安全・強度面も優れた通い箱を是非ご利用ください。

鉄網製

(大)@10,800円(内寸950×760×348)

(中)@8,500円(内寸775×460×400)

(小)@5,300円(内寸770×460×250)

(ご指定倉庫車上で渡し、納期：約10日間)

注文用紙は事務局にごございますのでご一報ください。(Tel 03-3669-2777)

3 「法律無料相談窓口」(何でも相談窓口)を気楽にご利用下さい。(経営効率化委員会)

当協会の理事である飯田理事の飯田法律事務所と法律顧問契約を結び、会員の皆様を対象に「法律無料相談窓口」を開設しております。皆様の身近な諸問題についても無料で受けられます。

引越してきたお隣さん。工場の音がうるさいので防音設備を付けたらいい、その費用を請求してきた！果たして請求に応じなければいけないのか…?

自転車で当てられ怪我をした！治療費の他に通院の交通費や着ていた服のクリーニング代ももらってもいいの？

隣の家の等がうちの庭まで伸びてきた！勝手に掘って食べたらいけないかしら？

会社にやくざな売込みが来て困る！トラブルを避けて断るにはどうしたらいいものか？

突然、家族が亡くなった！遺書が残っていないので、遺産をどう分けたら良いのか分からない。骨肉の争いは絶対に避けたいけど、うまく分ける方法は？

身近なお困りごと、会社のトラブル、お気軽にお電話ください。
全特協・会員会社の社員の方も無料です。
秘密は守られます。

そうだ！飯田先生に聞いてみよう

電話 03-3666-3838 (飯田法律事務所)

相談の流れ (電話で)

- 1 「全特協の無料相談窓口を利用したい」と言ってください。
- 2 「会社名、全特協の支部名」を言ってください。
- 3 あとは、担当の弁護士さんとお話してください。
- 4 無事解決 !!

■平井良平 (株)平井・代表取締役会長の作品 (P.9参照)



第50回国風盆栽展「ウメモドキ」



第77回国風盆栽展「野梅」



第84回国風盆栽展「真柏」

■ 編集後記 ■

今号がお手元に届く頃は、陽気もめっきり春めいていることと思います。

今年も「はがねの日記念切手」をたくさんお買い上げいただきありがとうございます。広報委員会では切手の収益金を「開発途上国の子どもたち」を救うために寄付することにしました。「チャイルド・スポンサー」になり、「何

もかもはできなくても、何かはできる」を精神に、その地区の子どもたちの成長を継続的に支援し見守って生きたいと思っています。皆様のご協力に感謝すると共に、今後も更なる多くの支援をいただけますようお願いいたします。

広報委員会委員長・広報誌発行責任者／福原実晴